

広報用実績のまとめ

平成 29 年度

団体名 岡山オープンバドミントン大会 実行委員会	委員長 代表者 山田 賢一	副委員長 記載者 松井 千明
所在地(市区町村名のみ) 岡山市中区		
活動目的 全国規模に近い形の大会を毎年誘致することで岡山県内の高校を中心とした、バドミントン競技者の育成と技術向上を目指すとともに地域の活性化にも貢献する。		
団体の紹介 平成16年開催岡山国体に向けたジュニア層の選手強化を継続するための一環として、当時の全国高体連バドミントン専門部 副部長の提案で岡山県高体連バドミントン専門部一部の委員を中心に組織された。その後、大会の規模等を考慮に岡山市バドミントン協会が組織の運営に参画した。全国大会に準ずる大会のため、毎年8か月程度の準備期間を経て3日間(3月29日～31日)の大会を運営しています。		
助成を受けての活動内容 平成30年3月29日(木)～31日(土)の3日間、男子は笠岡総合体育館(15コート)を中心に3会場、女子は岡山市総合文化体育館(22コート)を中心に2会場、男女合計で57コートを確保して大会を運営いたしました。(参考:2016岡山インターハイでは34コート使用) 男子は13府県から50校91チームをA級(各府県上位校)56チーム・B級35チーム、女子は14府県49校81チームを男子と同様に、A級56チーム・B級25チームに分けて、実質2.5日間の日程で全国大会に準ずる規模の大会を実施いたしました。 例年以上に参加数が増加したため、主催者側としては、色々な課題を抱えてのスタートであったものの、全国高校選抜大会直後の選抜出場校を含む各府県を代表する高校が切磋琢磨して、お互いの戦力アップに取り組む姿には感動を覚えるものがあった。また、県内から参加の各高校の選手にも、このような有意義な機会を大切に活用しようという姿が多く見られた。 最後に色々と援助・支援をいただいた貴財団などに感謝しながら、お互いの競技力・技術力・体力・精神力などの更なる飛躍を願い、来る全国高校総体(インターハイ)での再会を願って大会を終えることができました。		
助成を受けての成果 大会の規模を考えると、最低でも大規模の公共体育館を2カ所確保することが必要です。このため、借料損料は大きなものになるため、これを抑えるための色々な工夫をしていました。 今回は、今まで一番工夫をしていた照明を、全国大会と同様レベルで使用することが可能となったため、試合後に開催パネルの前で記念写真を撮る姿が増えるなど、参加者の満足度が上がったように思われます。今回の助成には本当に感謝しております。		
今後の活動の課題点 現状を踏まえると笠岡地域での参加数に見合った会場確保と宿泊先確保が大きな課題です。微力ながら、地域振興・経済効果なども総合的に考え合わせながら大会の計画や運営を継続していきたいと考えています。		
問い合わせ連絡先もしくは、ホームページアドレス(加入希望の方などへのお知らせなど) 問い合わせは、メールで松井までお願いします。 メールアドレスは <okayamashimintaikai@gmail.com> です。		

※ このページは、財団ホームページや印刷物などで公表される資料として使用される場合があります。
A4用紙1枚程度におまとめください。(他の報告書との重複可)
写真・チラシ・パンフレット(PDFもしくは、画像)等を添付していただいても結構です。

女子会場の様子

岡山市総合文化体育館 メインアリーナ



岡山市総合文化体育館 サブアリーナ

六番川水の公園体育館 女子B級会場



男子会場 笠岡総合体育館

笠岡市民体育センター 男子B級会場

